

家庭科で教える金融教育

— 指導法を学ぶ —

1 はじめに

2022年度から実施されている「高等学校学習指導要領」には、「預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット・デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする。」とあるが、授業で教えるためには、教員側も金融商品の知識を身に付けておく必要がある。金融商品の理解を深め、より実践的に授業を展開する方法を学ぶために、この研修を企画した。

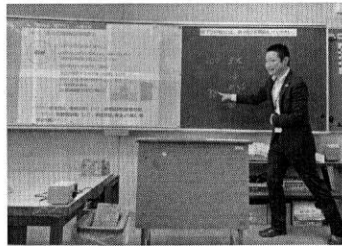
2 研修計画

(1) 令和5年5月24日(水) 研究協議・テーマの決定

(2) 令和5年7月26日(水) 研修会

会場：県立船橋芝山高等学校 被服室

講師：大和証券株式会社 船橋支店 資産コンサルタント課 関根 孝彦 氏



3 研修内容

(1) 講義

高校生向け 金融経済教育指導教材（金融庁）「貯める・増やす」～資産形成のパワーポイント～
（<https://www.fsa.go.jp/news/r3/sonota/20220317/20220317.html>）資料を使い授業の流れを確認し、その流れに沿いながらそれぞれの金融商品の詳細について説明を受ける。

① 預金・貯金

・銀行にお金を預けること。 ・元本保証あり（元本1000万円までとその利息）

例）「72の法則」は、「 $72 \div \text{金利}(\%) = \text{お金が2倍になる期間}$ 」。

2023年定期預金「金利0.002%」で100万円銀行に預ける。そのお金が倍の200万円になるには36,000年かかる。

・1990年頃、定期預金「金利約6%」として計算した場合、そのお金が倍になるには12年。

ポイント 上記の例を見ても、現在の金利では「預金・貯金」は安全性や流動性は高いが、収益性はかなり低い。過去と比べて「資産を増やす」という意味では難しくなっている。

② 債権

・国や会社にお金を貸すこと。
・定期的に利子が支払われ、満期がくれば額面金額を受け取るができる。
・国が発行するものを「国債」、会社が発行するものを「社債」という。
・発行した会社等が倒産すると、返済されない可能性がある。（元本は保証されない）

例）令和5年7月 【国債】初回利率 年0.28%

【社債】「M銀行」利率 年1.412% 「K鉄道会社」利率 年0.669%

「Sグループ」利率 年0.810%

ポイント 上記の例を見ると、社債は利率が高いが、安全性という面では発行企業次第。一般的に、流動性は低く、収益性は預金より高く、株式より低い。

③ 株式

・購入者（株主）は会社の一部を所有することになり、会社はお金を返す必要はない。
・会社が上げた利益に応じて配当などを受け取ることができる。
・会社の業績や国内・海外の景気などによって、株式の価値（株価）も変動する。

例）Yahoo ファイナンス等のサイトで、知っている企業、気になる企業の検索。

T社（車）終値2,344.5↑ モバイル通信S社 終値1,542.0↓など、実際の株価の比較。

ポイント 値動きのチャートを見ると、株価が上がり下がりしていることが分かる。

値動きの変動時に何が起きたのか？などをクイズ形式にすると、その時代に起きた社会事象等が株価の変動に影響を与えているということを考えることができる。

株式は、安全性が低い、高い収益性を期待することができる。（元本は保証されていない。）

④ 株式信託

・多くの人から集めたお金を1つにまとめて大きな資金にし、株式などに投資する仕組み。
・ファンドともいう。
・株価の変動などによって、価格が日々変動する。（元本は保証されていない。）
・少ない金額から購入できたり、分散投資もしやすい。

ポイント 直接的・間接的に負担する費用がある。（購入手数料・運用管理費用など）
投資信託の収益性、安全性は投資対象次第。流動性はある。

4 考察・感想

(1) 感想

・具体的に会社の株価を比較したり、チャートを見たりするのは、生徒も楽しいのではと思った。
・教員自身の興味・理解・知識をもっと深めていかないといけない。
・「金融経済ナビ」のサイトに掲載されている動画等を見せることは、理解しやすいと感じた。
・生徒に知識を身につけさせるだけの授業ではなく、実践に近い形で考える題材を取り入れていく必要があると感じた。

(2) 考察

教員側の知識にも不安があるため、どのように授業を展開し、どのように興味を持たせながら、短時間で正しい知識を生徒に与える「べき」ということへの心配があった。今回、金融商品の特徴や、現状を具体的に学ぶことで、授業の流れを考える参考になった。

金融教育に充てられる時間には制限があるが、『投資は利益を得ることもあるが、マイナスになる場合もあり「絶対」や「必ず」儲かる話は存在しない。』若者がうまい話に騙されないためにも、正しい知識を身につけることが大切である。そして、教える側の知識が必要だということを実感した。

5 おわりに

今回の研修により、基本的な知識だけでなく、実際の金融商品を紹介していただくことで、教員側の具体的な理解を深めることができた。今後も、時代に合わせた情報収集を重ねながら、生徒たちの将来へ役立てる授業づくりを、行っていきたい。

